令和５年度「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト　～いつでも　どこでも　誰でもが学べる

社会科 授業づくり講座　教材研究会 in 香美市立鏡野中学校

授業をアップデート！生きて働く学びを創る！

令和５年８月発行
東部教育事務所

東部管内の講座情報

～授業づくり講座(社会)テーマ～

問題/課題の追究・解決の学習過程における社会的な見方・考え方を働かせる問いや学習過程の工夫

～鏡野中学校社会科部会からの提案～

生徒の実態

●目的に応じて資料を読み取る力や、複数の資料を関連付けて思考する力に課題がある。

本単元においての取組

○単元を貫く問いの解決に向け、「自然環境」「高知県の人口の推移」「他県とのつながり」などの資料を集め、更に産業や観光の視点で思考したり、意見交流した上で自分の構想を表現する。

○各時間の問いの解決に必要な資料を１人１台タブレット端末を活用しインターネットから収集し、Google スライドに保存する。本時では構想・考察のために必要な資料をその中から複数選択し、それらを根拠として自分の意見を構築していく。

○違う立場で意見を書いている他者と交流する活動を通して、自分になかった視点や、選ばなかった資料からの学びを深め、より多面的・多角的な思考につなげる。

地理的分野　C 日本の様々な地域　(3)日本の諸地域②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方
単元：中国・四国地方

単元目標

【知識及び技能】中国・四国地方について、人口を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】中国・四国地方について、人口を中核とした事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

単元を貫く問い：高知県に関わる人口を増やすためには？　関わる人口・・・高知県に携わる、協力してくれる人口

問い	1時間目 高知県の人口の現状はどのようになっているのだろうか？	2時間目 本州四国連絡橋の開通により、中国・四国地方の人々の生活や産業にどのような変化が起こったのだろうか？	3時間目 高知県に関わる人口を増加させるために、生かすことができる高知県の資源や特色にはどのようなものがあるのだろうか？	4時間目 人口減少が進んだ地域で行われている取り組みから、関わる人口を増やすために高知県に生かせることはないだろうか？	5時間目 人口が減少した高知県の現状を基に、高知県に関わる人口を増やすためにどのような取り組みが効果的だろうか？
見方・考え方	位置や分布 空間的相互依存作用 地域	空間的相互依存作用 地域	空間的相互依存作用 地域	空間的相互依存作用 地域	位置や分布 空間的相互依存作用 地域

◆本単元終了時の目指す生徒の姿

本州四国連絡橋の開通により中国・四国地方に生じた生活や産業などの変化を良い面も悪い面も捉え、それらを基に、人口減少が進む高知県に関わる人口を増加させるための方法を考えることを通して、郷土に対する理解や関心を高め、諸資料を基にして、将来の世代のことも考えた高知県のためにできることを意欲的に考え、他者との意見交流を通して、自分の考えを深める姿。

協議より　視点「社会的な見方・考え方を働かせる問いになっているか」

【単元について】

・「何のために人口を増やしたいのか？」を明確にしてはどうか。
・経済の話になると、公民的分野の学習になるのではないか。
・SNS などを活用し情報発信できるような取組にしてはどうか。

【単元を貫く問いについて】

・「関わる人口」を生徒にどう捉えさせるか。
・「人口」だと数に焦点を当てがちになるので、「関わる人」にしてはどうか。
・都市部と地方のメリット、デメリットを整理し、「地方活性化のためにどうすれば？」という問いはどうか。
・単元を貫く問いの設定を「人口減少が進む中で経済を維持するためには？」にしてはどうか。

授業者(野末　学志　教諭)より

「なぜ人口を増やすか？」
「関わる人口の捉え方」などは教師の視点での課題設定でした。
もっと生徒たちの実態から、生徒が社会的事象をどう捉えるかを考え、生徒の姿から単元を貫く問いや、各時間の問いを設定していかなければならないと思いました。

講師　愛媛大学教育学部　井上　昌善　准教授　より

Ⅰ単元デザインについて

「単元の目標」と「単元終了後の目指す子供の姿」、「単元を貫く問い」と「各時間の問い」の整合性を図る

単元の目標				
単元を貫く問い				
問い①	問い②	問い③	問い④	問い⑤
単元終了後の目指す子供の姿				

整合性や妥当性

地理的な見方・考え方の視点

・**位置・分布**・・・どこにあるのか。その位置には規則性はあるのか。
・**場所**・・・その場所はどのような自然的おのび人文的特徴を有しているのか。
・**人間と自然環境との相互依存関係**・・・人間と自然環境とはどのように関わり、それは場所、もしくは地域で異なる事で、どのような違いがあるのか。
・**空間的相互依存作用**・・・地域間の物資や人の流動は、どのような理由に基づき、いかなる特性をもつのか。
・**地域**・・・どのような地域といえるか。今後の地域の在り方とは。

(発問例)
この地域でその課題が起こっている要因について、他地域とのつながりや関係性に注目して考えよう。

(発問例)
この地域はどのような地域といるか。地域の広がりや変容、人々の営みに注目して考えよう。

※「○○なのに××なのはなぜか？」という複文型の問いの設定も学習意欲の喚起につながる。
（例：四国で最も人口の少ない上勝町になぜ移住者や視察者が多いのだろうか？など）

Ⅱ地域課題に向き合う人材を活用した「日本の諸地域」の単元モデルの提案

「地域おこし(持続可能なまちづくり)」を中核とした考察

(1)九州地方から北海道地方まで、「地域おこし(持続可能なまちづくり)」を中核とした考察を行う。
→自然環境、人口や都市・村落、産業、交通や通信との関連付けが必然になる。

(2)高知の地域おこしの現状と課題を捉え、(1)で学んだことを踏まえて課題解決の方法を提案する。
→他地域との比較・関連付けに基づく考察を通した構想。

※学習課題を「自分事」にするために、地域課題に向き合う人材を活用する事も有効

問い①中国・四国地方ではどのような地域おこしが行われているか？

問い②なぜ、そのような取り組みが行われるようになったのか？きっかけは？

問い③他の地域でも行われているのか？
問い④どのような課題があり、その克服のためにどのようなことが必要となるのか？

問い⑤他の地域の取組をふまえて、持続可能な地域をつくるための課題の解決方法を考えよう！

〈参加者のアンケートより〉

・単元を貫く問いの設定の仕方一つで、生徒の課題意識が大きく変わり主体性に影響するのだと感じた。
・生徒に課題を解決する必然性を感じさせることが重要だと感じた。
・問いの方法を工夫して複文型で問いを投げかけて、深い学びにつなげていきたい。
・中学校に向けて、スムーズに進学していけるように、小学校の学習内容を考えていきたい。また、中学校の学びにつながる学習内容や、教材開発をしていく必要があると考える。

これからの授業改善に向けて

check

・単元の目標と単元終了後の目指す生徒の姿との整合性・妥当性を図りながら単元をデザインする。

・地理、歴史、公民それぞれの見方・考え方の視点を踏まえ、多面的・多角的に考察する問いを設定する。

授業研究会　令和5年9月 21 日(木)午後　香美市立鏡野中学校

課題解決に向かって資料を読み取り、それを根拠として表現する生徒の姿や、みなさんの授業をアップデートさせるためにもぜひお越しください。